

●地域貢献事業の推進

本学は、様々な地方公共団体や各種団体と連携して地域貢献事業を行っています。

平成18事業年度は、京都府や財団法人稲盛財団等と連携して「京都文化会議2006—全球化時代のこころを求めて」を開催しました。また、和歌山県田辺市と、施策の企画立案への支援などの社会貢献に関する覚書を締結しました。

医学研究科では滋賀県長浜市と共同して、地域・市民・研究機関・臨床現場が一体で体質的要因(ゲノム)と環境要因を詳細に検出・検証し臨床に反映する「0次予防健康づくり推進事業(ながはまプロジェクト)」を進めています。

●生涯学習の場や機会の提供

平成18事業年度は、「森のしくみとその役割—今、芦生の森で!—」や「防災研究最前線—環境変化と災害—」など公開講座を20件以上、各分野で活躍する本学卒業生が講演を行う「京都大学未来フォーラム」を6回開催しました。その他にも、中学生向けのジュニアキャンパスやシニアの方を対象としたシニアキャンパス、各種公開講演会など、より多くの皆様に学習の機会を提供するよう努めています。

●公開施設

和歌山県白浜町にある瀬戸臨海実験所水族館は、博物館相当施設の指定を受けて一般に公開している水族館です。また、総合博物館では、標本資料等による常設展示のほか、春秋の企画展示などを通して本学の学術資料を広く社会に公開しています。このほか、附属図書館や大学文書館による企画展などを開催しています。

●環境報告書

本学は、平成18事業年度より、環境報告書を作成し公表しています。本報告書では、広範囲の環境データを公開しているほか、ステークホルダー(利害関係者)委員会を立ち上げ、学生や地域のみなさまほか多くの方々の意見を取り入れるよう努めています。

本報告書に掲載されているエネルギー使用量やコピー紙使用量などの削減については、環境負荷の軽減のみならず、大学の財務改善にもプラスの効果が見られると期待されています。

●地域の財産を活用した大学活動の推進

本学桂キャンパスの隣接地に位置する「桂イノベーションパーク」においては、京都市、京都地域の産業支援機関、科学技術振興機構、中小企業基盤整備機構が一体となり、本学の研究成果を社会に還元する活動を推進しています。

また、京都の重要な財産である“町家”における取り組みも行っています。地球環境学堂・学舎・三才学林においては、平成16事業年度より「はんなり京都鳴臺(しまだい)塾」として、国の登録文化財である町家“鳴臺”を会場に、地球環境学の成果を「京ことば」で綴る一般市民向けの公開講座を開催しています。大学院情報学研究科では、平成18事業年度、「町家教育拠点」を設置し、地域社会との協創による情報システムデザインの教育研究に関して30回を超えるセミナーを実施しました。

入場料収入

(単位:百万円)

区 分	16年度	17年度	18年度
瀬戸臨海実験所水族館	23	25	26
総合博物館	5	6	7
計	28	31	33

入場者数

(単位:人)

区 分	16年度	17年度	18年度
瀬戸臨海実験所水族館	54,974	58,292	61,413
総合博物館	25,502	29,930	38,223



平成18年9月に公表しました「京都大学環境報告書2006」は、環境省等が主催する「第10回環境コミュニケーション大賞」において「環境配慮促進法特定事業者賞」を受賞し、また、東洋経済新報社等が主催する「第10回環境報告書賞」において「公共部門賞」を受賞しました。